

2009年 10月 14日

国土交通大臣 前原 誠司 様

北海道脱ダムをめざす会

(社)北海道自然保護協会 会長 佐藤謙

北海道自然保護連合 代表 寺島一男

十勝自然保護協会 会長 安藤御史

富川北一丁目沙流川被害者の会 代表 中村正晴

平取ダム建設問題協議会 代表 松井和男

苫小牧の自然を守る会 代表 館崎やよい

イテキ・ウエンダム・シサムの会 代表 佐々木義治

平取ダム建設で失われる自然を守る会 代表 中村智子

自然林再生ネットワーク 代表 前田菜穂子

下川自然を考える会 会長 千葉永二

サンルダム建設を考える集い 代表 渋谷静男

名寄サンルダムを考える会 代表 竹内 和郎

サンル川を守る会 代表 橋本 泰子

環境ネットワーク旭川地球村 代表 山城えり子

大雪と石狩の自然を守る会 代表 寺島一男

北海道の森と川を語る会 代表小野 有五

旭川・森と川ネット21 代表 平田一三

当別ダム周辺の環境を考える市民連絡会 代表幹事 安藤加代子

## 北海道におけるサンルダム・平取ダム・二風谷ダム・当別ダムの 今後の対応についての要望書

10月9日に、貴職は北海道のサンルダムと平取ダムの事業の凍結、当別ダムについては北海道知事の判断尊重との見解を明らかにしました。私たちは、9月29日に貴職に対してこれらの3ダム事業の凍結と二風谷ダム撤去の検討を要望しました。サンルダムと平取ダムについては、私たちの要望が実現して歓迎するものですが、当別ダムについての判断をダム推進を掲げる知事にゆだねた点については納得できません。なお、私たちが、貴職宛に10月5日に平取ダム提体建設のための道路工事入札中止要望書を出したところ、7日に北海道開発局が延期を決定しました。この道路は、本体工事につながるだけでなく、アイヌの聖地と重要な自然環境を破壊するものでしたので、迅速な対応で、延期されたことに対し敬意を表するとともに、引き続き本体工事が行われないうよう要望することを申し添えます。

以下に、今後の対応についての私たちの要望を述べます。

**要望1** サンルダムと平取ダムの凍結後の対応については、従来の河川管理者主導ではなく、住民参加で民意を反映できるものとし、国民の財産である河川を後の世代まで残す広い視点からの論議できるものとするよう要望します。

- 要望2 当別ダムについては、都道府県の事業という線引きで知事にゆだねるのではなく、議論がほとんどなされないまま事業が推進されたことに鑑み、要望1と同様に民意が反映される論議が行われるよう要望するとともに、貴職におかれましてもダム事業の必要性について精査されることを要望します。
- 要望3 二風谷ダムについて、撤去も含めて早急に解決策を検討するよう、引き続き強く要望いたします。
- 要望4 「平成22年度における136の個別のダム事業の進め方に関する基本的な方針は、政府予算案の提出時までには明らかにする」について、以下の5点を重視して検討されることを要望します：1) 上記記載のように民意が反映される場で検討されること、2) 従来の国土交通省の「計画高水」等による考え方を根本から検討して、ダムによらない治水について真剣に検討すること、3) 利水については国民の重要な水資源を大切に利用する管理の視点を重視すること、4) 流域住民の暮らしを第一とし、流域の生態系の保全や漁業への影響を重視すること。

私たちの要望に関する根拠は、以下に続けて述べさせていただきます。

### 1. サンプルダム

前回要望書で述べたように、サンプルダム計画を検討する天塩川流域委員会は、私たちの疑問や提案についての話し合いを一貫して拒否してきました。その原因は、委員の人選も委員会の運営もすべて北海道開発局が行ったためと考えています。このような審議の進め方では、住民や自然保護団体の考えはまったく反映されず、最後にはダムを建設してからサクラマス保全策としての魚道の効果を検証するという、本末転倒と思われる税金の無駄遣いを強行しようとしています。住民や自然保護団体の英知も結集できる審議機関を要望します。私たちは、淀川流域委員会が良い参考となると考えていますが、少なくとも住民等の意見が反映できる人選と委員会運営を要望します。

### 2. 平取ダム

別紙の北海道開発局長への要望書に詳細を述べていますが、開発局は平取ダム本体工事のための道路建設の入札を強行しようとしていました。これは、貴職が9月にダムの凍結・見直しの方針を示してから以後のことです。幸いに、私たちが中止の要望を貴職に提出していたため、開発局は、入札を当面延期すると発表しました。今回の貴職の見解によって少なくとも平成21年度は入札が行われなくなったことを歓迎いたします。一連の経過は、開発局は、貴職の見解も私たちの要望も無視したことを示しています。貴職がこのような暴挙を質して、住民等の声に耳を傾ける開発局に生まれ変わるよう指導していただくとともに、サンプルダムの項でのべたように、ダム事業の必要性、環境悪化などについて住民等の意見が反映される機関を設置していただくよう要望します。この点については私たちも今後積極的に意見を述べていきます。

### 3. 当別ダム

先の要望書で述べたとおり、当別ダムの必要性を検討する事業再評価委員長を、札幌市の諮問機関である審議会（水道部会）の部会長である人物が務めて、十分な審議も行わず、ダム事業を

実施することを決めたことが大きな汚点です。あらためて、焦点となっている水道水の利用について住民等の意見が反映される委員会を設置して、審議が行われるよう要望します。

#### 4. 二風谷ダムの撤去の検討

前回の要望書に示したように、二風谷ダムはあと十数年で土砂が埋まる可能性が極めて高く、現在でも洪水調節機能はかなり減少して、大雨の時には満水を越えて急激な無調節状態となり、下流の流量が一気に増加して、極めて危険な状態が生じる可能性があります。二風谷ダム撤去は、まず水門を開け放しにし、土砂を徐々に減らして、状況をモニターしながら時間を掛けて少しずつ元の清流にもどし、河道を整備して調節することがもっともよいと考えています。二風谷ダムの状況は、今までの負の遺産ではありますが、放置するわけにはいきません。ご検討を要望します。